

愛道

第99号

発行・平成21年5月1日

社会福祉法人 足羽福祉会

今号の
テーマ
「つながり」



- ・桜がつなく人と心（足羽学園）・・・・・・・・・・2・3ページ
- ・赤い糸はだれのもとへ（足羽更生園）・・・・・・・・・・4ページ
- ・先輩から後輩へ～受け継がれる思い～（足羽ワークセンター）・・・5ページ
- ・できるかぎりの声を聴きたい～企業との協働を通して～（愛全園）・・・6・7ページ
- ・チームワーク～よい接遇から職員の輪を深めよう～（足羽東保育園）・・・8ページ
- ・想いを大切に～望む暮らしを支える～（足羽利生苑）・・・9ページ

子どもたちのいろんな表情。純粋な心が表れています。

～平成20年度 2才児～
（足羽東保育園）



足羽学園・足羽更生園の旧一五八号線沿いに、桜の樹（ソメイヨシノ）が二十一本あります。約四十年もの間、利用者の方や、働く職員、地域の方々に、その優雅な姿で、季節の移り変わりを感じさせています。

今回は、当施設のシンボルとも言える、素晴らしい桜の樹を紹介します。

桜は季節をしっかりと感じさせてくれます。

春には花を咲かせて心を和ませ、夏には青々とした葉をつけ、木陰を与えてくれます。秋には紅葉や落ち葉でみなさんの目を楽しませ、冬には枝に雪が積もり、春の満開期を思わせ、春の待ち遠しさを感じさせてくれます。



一般的に、ソメイヨシノの寿命は五十〜六十年と言われています。現在の足羽学園のソメイヨシノは人間に例えると六十五歳くらいでしょうか。桜の樹として素晴らしい時期ともいえるでしょう。

花びらは五枚で葉が出る前に花が開き、満開となります。

花びらの色は、咲き始めは淡紅色ですが、満開になると白色に近づいていきます。満開のときには花だけが密生して樹全体を覆います。

満開ともなれば、当園の正面玄関に通じる坂道は五十メートルほどの桜のトンネルとなりやさしい光と香りに包まれます。私たち職員も足羽福祉会の一員となる入社式の緊張を桜のトンネルをくぐりながら落ち着かせていたことを思い出します。



桜の中で家族と餅つき！
平成20年春

ともいえます。

そんな雰囲気も満開の桜が払拭してくれるのです。

そんな施設のシンボルでもある、きれいな桜を安全に、長く鑑賞できるように、維持管理にも気を使っています。

利用者の方と桜

春は生活の環境が大きく変化する季節であり、利用者の方も慣れない環境に大きな不安を感じ、落ち着かない季節

利用者の方たちは、お部屋の窓から一望できる桜を見て「見て！満開や！」「風が強いね。桜がふつてる」などと話しています。桜が仲介役となり、自然に職員との会話が増え、不安な気持ちもいつの間にか消えている、といった感じなのです。

また、春に限らず「枝に雪が積もって満開みたいや」などと話ながら、桜の樹を見ている子どもたちの目と心は一年を通してキラキラと輝き、自然の美しさに心を奪われているかのようです。

「施設周辺紹介」

足羽福祉会

周辺名所紹介

足羽学園編

歴史的発電所跡

写真の発電所跡は、足羽学園から百五十メートル程西に下ったところにあります。

京都電灯株式会社の福井支店（北陸電力株式会社の前身）が、水の量が安定している北陸の自然と、足羽川の蛇行を利用した水路式発電を、この場所です明治三十二年に開始しました。このとき初めて福井市の六百戸に電灯がとまりました。北陸では一番目、全国でも三番目の発電所だったそうです。今では大きなダム式発電が主流となり、この発電所は昭和三十一年に廃止されました。



足羽福祉会と桜

足羽福祉会では毎年桜の咲き誇る四月上旬にお花見交流を行っています。お花見交流の歴史は長く、平成十七年度までは、足羽東保育園の立派な桜の樹を囲んで交流を行っ

ていました。平成十八年からは四十年近くもかけて大木となった当園の桜を見ながらのお花見交流となりました。これは足羽福祉会の施設間交流で



↑平成20年度お花見交流風景→

あり、足羽東保育園・足羽学園・足羽更生園・足羽利生苑・愛全園の利用者の方が年に一度の楽しみとして心待ちにされています。

◎宿布町Bさん
普段は学園の近くは通らないうに一五八号線に出してしまうのですが、桜の時期には少し遠回りをして、前を通るよ

満開の桜の下で聴く足羽東保育園の園児たちの歌声に表情を和らげ、お茶とお菓子の味に参加者全ての心が柔らかくほぐされています。
桜の絵を描いたり、作品を作ったり、披露したりもします。また、その作品を各施設に持ち帰り、参加できなかった利用者の方にも紹介しています。

地域の皆さんと桜

◎宿布町Aさん
桜のトンネルはきれいだし、犬の散歩コースにしています。毎年見ている心がいやされています。

うにしています。
◎宿布町Cさん
パツと見て、学園さんが何処にあるのかすぐに分かるんですよ。あの眺めも最高にきれいで、宿布町が明るくなつたように感じられるんです。心も明るくなったように感じますね。

このように、地域の皆さんも桜に誘われるように足羽学園の近くに足を運んでくださっているようです。

毎年見にきてくださっている皆さんも、そうでない方も是非、桜の咲き誇るころに敷物を広げ、お茶の一杯でも飲みながら、目と心をいやしに来てください。

ぼかぼか陽気と、心地よい春風にあたつっていると、遠い昔の淡い記憶がよみがえってくるかも知れませんよ。
また、その機会が利用者の方と皆さんとの交流の場になれば幸いに思います。



赤い糸はだれのもつ？

だれかとつながっていることは素敵なことです。今回は、「家族」「利用者の方同士」「職員」との三つのつながりについて紹介いたします。

♥ご家族とのつながり

Tさんは、足羽更生園に入所してちょうど一年になりました。当初は、毎週の定期的な帰省がありました。現在は、家族の方の体調が悪く、毎週の帰省ができなくなりました。帰省ができないと知ったときは「お家帰る」と言い、落ち着きがなくなることがありました。そうしたときは職員と共に家族のアルバムを見ることで落ち着きを取り戻されました。



思い出のアルバム

最近、一人でお気に入り

の場所でアルバムを見ています。きっと、アルバムを見ることで家族とのつながりを感じているのではないかと思います。

♥担当者の声

家族の代わりはできないかもしれませんが、少しでも家族のぬくもりを感じていただけるよう支援していきます。

Tさん担当 渡辺 重弘

♥利用者の方同士のつながり

Fさんは、普段の生活の中で、お互い助け合う姿をよく見せてくれます。着替えができない方を手伝い、一人でジュースが買えない方の手をひいてジュースを買いに行かれます。



二人でジュースを買いに行きます

「職員がしますよ」と声を

かけると「これは、僕の仕事なんだ」という表情をされます。長い共同生活の中で築かれた利用者の方同士のつながりを感じる一場面でした。

♥担当者の声

普段はクールですが、やさしさは人一倍です。Fさんいつもありがとうございます。

Fさん担当 篠田 昭一

♥職員とのつながり

Mさんは毎食事前に、全職員にあいさつをしないと食事ができず、あいさつするときには、職員の付き添いが必要なほど、かわりを求めてこられます。そして、そのようなMさんの気持ちに職員もたいて一緒に施設内を回り、あいさつの支援をしてきました。

しかし、一人でもできることを目標とし、職員全員が入りする玄関で朝のあいさつをすることにしました。最初は、職員が付き添いながら始めましたが、今では一人でできるようになりました。また、あいさつの回数も減らせるように取り組み、全職員ではなく、Mさんが所属するカペラ寮の職員のみにあいさつをすることにしました。

身近な職員とのかわりをより感じてもらえるように努力し、Mさんにとって全職員にあいさつをしなくても職員とつながっていることを理解してもらえようと思いました。

今は、カペラ寮の職員にあいさつするだけで、朝夕の食事ができるようにしました。

ただし、Mさんの望む全職員とのあいさつも昼食時だけ行っています。



いつでも、身近に職員はいますよ

♥担当者の声

Mさんは、すごく作業能力、集中力があります。Mさんの良い面が活かせるよう生活面でも支援していきたいです。

Mさん担当 吉野 拓巳

人と人とのつながりは不思議なものです。こんなに素敵な利用者の方々と出会って私たちはうれしいです。これからも共に歩んでいけることを願っています。

足羽更生園編

足羽しくぐたは、明治三十四年に施主のもとに運ばれる途中に足羽川に水没しました。

のちに、村人が岸辺に引き上げましたが、お不動さんは「ここにおろしてくれ」といつて動かなくなつたといわれています。



園から徒歩2分の所にあります。

「施設周辺紹介」

足羽更生園近くの宿布交差点にある花壇です。利用者の方と一緒に職員も手入れをしています。



平成20年に福井市花壇コンクールで銀賞を受賞しました。

先輩から後輩へ… ～受け継がれる思い～

何年が経っても

足羽ワークセンターが創立して二十年あまりが経ちます。今回は先輩から後輩に伝えたいこと、また先輩の姿を見て後輩が感じたことを話していただきます。

福祉の仕事に携わるようになって、はや二十二年が経ちました。

時と共に時代は変化し、サービス提供者として、

利用者の方とかかわっています。基本である福祉の心は変わっていません。

毎日利用者の方からいろいろなことを教わり、自分を成長させていただいたことに感謝しています。

たくさん先輩たちから利

用者の方とのかかわり方を学び、その教えが今の私の支えになっていると感じています。後輩に伝えることがたくさんある中で、私は利用者の方とかかわることの大切さを伝えていけたら良いと考えています。

入社二十三年目 平澤 明

信頼されること

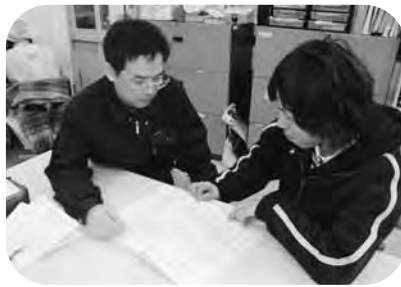
先輩からのある言葉が私の心の中にずっと残っています。それは「人の忠告や注意を、あるいは仕事の依頼を素直な気持ちをもって受け止める」ということでした。

その先輩は「忠告や注意を受けるのは失敗を責められているのではなく、期待・信頼されている証であって、それを受け止めて実行しようとするから周りも助けてくれるし、私自身も応援したいと思えてくる。だから何度でも言おうとする。反対にそれをしようとしな人には何も言いたくない」とおっしゃっていました。

それは当時仕事でミスをして落ち込んでいた私にかけて

くださった言葉です。うれしくなる反面、気にかかれなことはつらいことだと改めて気付かされました。後輩には素直な気持ちをもって仕事に取り組み、良い意味でたくさん注意を受ける職員になってほしいと伝えたいです。

入社七年目 高山 洋平



江守支援員(左)に業務を引き継ぐ高山支援員(右)

築き上げるもの

入社してから半年が経とうとしていますが、利用者の方には大変温かく迎えていただき、楽しく充実した日々を過ごしています。これは日々の先輩職員のご支援のたまものだと感じています。

中でも印象に残っているの

は、作業場で一人の利用者の方が感情的に行動されたときのことです。先輩職員は「〇〇さんどうしたの」と穏やかな口調でその方の手をとり、気持ちを落ち着かせ、他の利用者の方の動揺を抑えることを自然体で行っていることでした。

そこに私は両者間にある強い絆を感じることができました。これは短い期間では、つくりあげることのできないものだと思います。一日でも早くこの絆を築いていきたいと思うとともに、私に後輩ができたときは、利用者の方と築きあげる絆の大切さを伝えていきたいと思っています。

入社六ヶ月目 江守 正行

先輩から後輩に伝えられるものは、両者にとって大きな財産になります。伝えていく側には、これまでの軌跡となり、伝えられた側にもこれらの糧として残ります。そして伝えてもらったことをまた次の人に伝えていくことにより、そのつながりはより強いものとなり、新たにできるつながりへと導いてくれます。

「施設周辺紹介」

足羽ワークセンター編
なが〜いすべり台



足羽ワークセンター第2事業所、足羽サポートセンターのそばの「和田公園」
長いすべり台が特徴的な公園です。



声を聴きたい

働を通じて～

愛全園の園訓、締めくくりに言葉は「最善を尽くすこと」に誇りを持ちましょう。今回は、排泄ケアを取り上げます。企業との協働により試みた「おむつはずし」は、果たして「最善を尽くす」に至ったのでしょうか？

振り返ってみれば

十年前の愛全園です。おむつが必要な方には布おむつを使用し、そのうちの何名かには尿取りパッドを同時に使用していました。一日七回を定時のおむつ交換とし、利用者の方から交換の訴えがあった場合は随時に対応、多い場合で一日に十回近く交換を必要とされた方もいました。布お

むつの場合、排泄後の不快感は想像以上です。重みだけでも歩きにくくなるほどです。それゆえ、おむつの交換回数が多いほど、質の高いケアを行っている意識でいました。反面、交換すればするほど時間に追われ、ケアというより、ある意味、作業になつてしまいうる不安や危険性を感じていました。もつとゆつたり寄り添い、向き合いたいと願う職員の気持ちだけが空回りしていました。

紙おむつへ…大きな出会い

ちょうどそのころ、地域の高齢者施設を対象にセミナーが開催されました。ユニ・チャーム株式会社が開くそのセミナーでは、紙おむつを用いて個別の心身状態に合ったケアを実践し、排泄のリハビリから、よりよい生活へつなげる考え方が紹介されていました。その考え方を実践した施設の報告は、特に印象深いものだったと参加した職員は言います。

園に持ち帰り、早速、紙おむつの導入を検討されました。利用者の方一人ひとりの想い

に沿うために、有効な一つの道具として紙おむつを捉えよう、排泄面での積極的なリハビリにつなげようと、紙おむつへの転換が決まり、ユニ・チャーム製品を採用することになりました。

それぞれの持つ専門性

愛全園でのケアの根幹は「利用者の方、一人ひとりに寄り添う姿勢」です。委員会を組織して排泄ケアに取り組んできた私たちは、まず、それぞれの利用者の方に合ったおむつの種類を探りました。排泄の個別データ収集、分析を開始。一回の排泄量、排泄時間帯、利用者の方の意向や意識、排泄時の動作などを調査したのです。



排泄量の実態調査

しかし、言葉での表現が困難な利用者の方も少なくありません。ちよつとした表情や仕草の変化を捉える「気付きの目」こそ私たちの重要な専門性でした。一方、客観的なデータ分析能力の点で、研究所としてのユニ・チャームのノウハウも重要なものでした。それぞれの専門性を活かした協働作業が始まった瞬間でした。

一人でも多くの方に…

利用者の方それぞれのデータをもとに、おむつの種類、トイレへ誘導する時間の設定、介助の方法など「おむつはずし」に向けて、個別に具体的な計画ができるようになりました。当初は二名の方を対象に、一日一回トイレに座っていただくことを目標として「おむつはずし」が始まりました。何よりも排泄への意欲を大切に始めてきました。平成二十年度には、十六名の方を取り組んでいます。八十九歳のAさんは重度の認知症で会話によるコミュニケーションは困難でした。当初は一日中おむつが必要な方

「施設周辺紹介」

愛全園編

【旧勝山街道の道標】

えちぜん鉄道新保駅付近に立つ道標。「永平寺へ三里」と彫られています。実は「三里十一丁」と続くそうです。メートル法なら、およそ十三キロメートルです。



【不朽の柱】

啓蒙小学校に立っているこの柱、もともとは柴田勝家公が足羽川にかけた九十九橋の橋脚です。かつては校門の柱として使用していたそうです。決して朽ち果てない姿に「たくましく育て」という願いを込めたシンボルです。



できるかぎりの

～ 企業との協

で、排泄の意思表示もなく、三日おきに浣腸を行い排便を促していました。しかし、身体に麻痺はなかつたため一日数回のトイレ誘導、トイレに座っていた、多くが介助が行われました。およそ八ヶ月後のことです。朝食後トイレに座れば自然に排便ができるようになりまし。残念ながら、Aさんはお亡くなりになりましたが、その直前までトイレを使うことができました。

委員会としての責任

委員会としては、取り組みの過程で表れる些細な変化を、



データを検討する会議

さらなるケアの追及

この三月、ユニ・チャーム主催の排泄フォーラムが開催

全職員で共有することが重要だと考えていました。Aさんの場合で言えば、トイレに座る介助を行った職員へ「ありがとう」と一言があったことを伝達、全職員がその喜びを分かち合いました。

一つひとつの小さな成功を全員が共感することで、取り組みが継続するだけでなく、大いに士気が高まっていきました。Aさん同様、朝食後のトイレ誘導が必要な方が多くなると、その時間帯の職員配置を手厚くするなど、勤務シフトが変更されるまでになりました。

されました。これまでの愛全園での実践が報告されました。これによって、一つでも多くの施設が新たな取り組みを始めていただけることを望みます。また、これからもさまざまな出会いを大切にしたいと思います。たくさんの方の力を結集して「利用者の方々のよりよい生活」へ確かな歩みを続けます。

メッセージ

愛全園さんとは平成十三年以来のお付き合いです。愛全園さんはこれまで「利用者の方の意向、身体状況に合った快適な排泄」を目指し、取り組んで来られました。私たちも「それぞれの利用者の方に適したおむつ・パッドの選び方、あて方」「下剤にたよらない排便ケア」などの勉強会を通して情報提供に努めてきました。

平成二十年十月には「おむつはずし」の実態調査と「おむつから



ユニ・チャーム株式会社 排泄研究所 研究リーダー 船津 良夫

リハビリパンツ」への転換を試みる活動にも協力いただきました。現場の皆さんの「利用者の方のために」実践する日常業務から多くを学ぶことができました。これからも「おむつはずし」の自立支援実践の協働パートナーとして、利用者の方のために何ができるのかを一緒に追求していけることを願っています。

私たちは、言葉や表情とは違う『新たな声』を聴けたのかも知れません。客観的な事実が語りかけてくる声です。介護の現場とは異なる方々との協働だからこそ、聴けた声なのでしょう。 広く、多くの方とつながり、自分たち自身の「聴く耳」を鍛えながら、最善を尽くします。誇りを持って。

「施設周辺紹介」



この写真は、南東から撮影したものです。右から順に愛全園、福井循環器病院、丸山です。

【丸山】 遠くからでも、一目でわかる天然のランドマークです。かつては自由に登ることができました。遠足の行き先にもなっていたそうです。山中には神明神社が、頂上には丸山配水池があります。

チームワーク

よい接遇から職員の輪を深めよう

足羽福祉会では、利用者の方によりよいサービスを提供し、満足していただくために職員は「接遇マナー」を学んでいます。

今回は、足羽東保育園における取り組みからの気付きをお伝えします。

まずは形から

当園では相手により印象を与えることがよいコミュニケーションを取る第一歩と考え「接遇」を大切にしています。

仕事前には、鏡の前に立ち、服装と髪をすっきりとまとめています。身だしなみを整えると、自然に気持ちが引き締まり、仕事へのやる気が出ます。

また、子どもや保護者の方が気持ちよくなるようなあいさつを考え、まずは職員から見直しました。笑顔で明るく丁寧なあいさつを続けていくうちに、子どもからも元気な

声が返ってくるようになりました。



朝のあいさつでさわやかスタート

子どもたちの表情もニコニコの笑顔で、きつと心地よさを感じてくれているのだと思います。保護者の方からも「先生のあいさつが明るく丁寧なので、安心して子どもを預けられます」との声も寄せられるようになりました。

心を形に

声や表情、お辞儀などの形を整えることは、相手を敬う気持ちとなり、お互いの心がつながっていくのだなと実感しました。このことは大きな

接遇とは

*相手が望んでいることをしてさしあげ、喜んでいただくこと
 *自分の心を磨き、利用者の方に心(意識)と形(表現)でサービスを提供していくこと

学びで、職員が自分の姿を見直すようになりました。

子どもにはゆつくりと柔らかい口調で、安心できるような言葉がけをしました。また「あなたの存在を認めている」という笑顔と優しい表情、態度でかわるうとしました。

心を形に表現することで、子どもからもどんだん心を開いてくれるようになってきています。

接遇からチームワーク

「接遇」に取り組んでいくうちに、職員同士の人間関係が良くなり、優しさも広がっていることに、みんなが気付きました。また、相手に心地よさが届くようなあいさつや、丁寧な言葉遣い、行動から、秩序あるチームワークにもつながっています。

そこで、さらに職員のつながりを深めるために、日々の保育の中で子どもから学んだことや感動したこと、自分の

行動を振り返るきっかけとなった言葉などを報告し合う『今日の気付き』という取り組みを行うことにしました。

「子どもは大人の言動など何でも吸収するので、自分の言動に気をつけたい」「自分が悩んでいるときに、他の先生からいろんなアドバイスをもらい、うれしかった」など、いろいろな気付きをみんなが共有しています。この取り組みを通して、職員のチームワークも高まり、形から始めた「接遇」が、いろいろなことにつながっていくことの奥深さを改めて実感しています。



何でも相談し合う職員たち

これからも「接遇」を習慣化し、職員の輪を深めながら、子どもや保護者の方、地域の方々に喜んでいただけるようにしていきたいと思っています。

足羽東保育園

保育士 持田 里世

「施設周辺紹介」



忠魂碑

長い階段を登ると、忠魂碑があります。山の自然もいっぱいです。



上文殊小学校

保育園から近く、歩いて交流に出かけています。

足羽東保育園編

想いを大切に ～望む暮らしを支える～

利用者の方と接する際は、その方の意思を尊重し、適切な支援をすることが重要です。そういった支援をするために、足羽利生苑ではどのように利用者の方やご家族とかかわっているかを紹介いたします。

足羽利生苑を利用されている方は、さまざまな理由で自宅での暮らしが難しくなり、施設で生活するようになった方々です。

しかし住み慣れた家・地域から離れることになっても、生活パターンやゆずれない習慣、好きなこと・嫌なことがあります。利用者の方にはこれまでと同じように生活したいという望む暮らしがあるはずです。また、親・祖父母に

はこのように過ごしてほしいというご家族の想いも必ずあはずです。

そういった想いにこたえるためには、しっかりとした介護計画を立て利用者の方とかかわることが必要になります。

介護計画は『安心して落ち着いた暮らし』『望む暮らし』『自立支援』を目標として作られます。そして適切な計画を立てるためには、まず利用者の方・ご家族の話をよく聴くことが大切です。「何を希望されているのか?」「逆にしてほしくないことは何か?」「好きな食べ物は何?」「家ではどのように生活されていたのか?」などいろいろなことを参考にします。



大好きなビールで乾杯

次に、計画内容が利用者の方にとって、本当に安心できる、望む暮らしにつながるのかを考えることも必要となります。

例えば、体力が落ち、歩く

のが困難になったAさんという人がいるとします。Aさんは転ぶのが怖いから歩きたくないと言います。その場合、Aさんによく説明し、同意していただいた上でリハビリに取り組みという方法もあります。また、Aさんの意思を尊重し、車いすを使って生活できるように支援していくという方法もあります。

支援にはいろいろな方法がありますが、大切なのは介護者の想いだけで計画を進めるのではなく、利用者の方の想いを聴いて計画を立てていくことです。本当にその人のニーズに合っているかを確認することが必要なのです。

施設では家と違い、食事や入浴時間などが決まっております。希望に沿えないこともあります。しかし、一人ひとり望む暮らしは違うこと、利用者の方のための計画であることを忘れず、個人が望むことは可能な限り取り入れて、実現していきたいと考えています。

足羽利生苑には認知症のために、自分の希望をうまく表現できない方もいます。そのため利用者の方とご家族のつながりを深める支援を行い、

意見をいただくことが重要です。

介護計画を立てるためのサービスマン担当者会議や面会時に、ご家族とのかかわりを密にし、いろいろとお話しを聞けるように配慮しています。また、お便りで利用者の方の生活の様子や健康状態などを報告し、意見や要望をいただけるようにしています。

ご家族の想いを知り利用者の方と接することが、よりよいケアを提供するうえで欠かせないことです。そのためにこれからも利用者の方・ご家族・足羽利生苑のつながりを大切にして協力しあい、安心できる望む暮らしの実現を目指していきたいと思えます。

足羽利生苑

主任 山下 昌代



細かい作業は昔から得意です

足羽利生苑編 隠れた名水 岡の泉



とても澄んだおいしい水です

「岡の泉」は福井市郊外の次郎丸町の集落にある名水です。朝倉氏二代目、朝倉氏景が建立した吉備神社の手水に使ったともいわれます。緑の木々が泉に隣接する水辺の風景は、福井市の都市景観にも選ばれました。

泉の中の井筒からこんこんと湧き出す澄んだ水は、クセのないまろやかな味です。

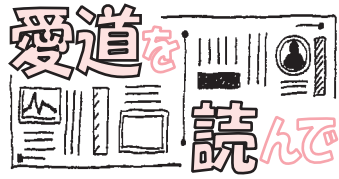


この水は最高やでの～
いっぺん来てみねの～

みんなの広場



敬称略させていただきました。



「愛道」を初めて読ませていただきました。九十八号の中でも、全国障害者スポーツ大会の記事が印象に残りました。全国出場にむけて、利用者の方が多いように取り組み、職員の方がどのように対応していたのか、とても興味深く読ませていただきました。

また、実習生へのインタビューでは「愛全園」の魅力について「笑顔が多くあったかいところ」というお答えに共感を覚えました。自分が初めて「愛全園」でボランティア活動をさせていたとき、緊張している自分に対して、気さくにあいさつしてくれた職員の方々を思い出しました。

「愛道」を通して、足羽福祉会のそれぞれの施設にどんなイベントがあり、どのような取り組みを行っているのかを知ることができました。今後益々、皆さまが活躍されることを願っております。

日本福祉大学通信教育部 福祉経営部四年生 田端 涼子

おばあちゃんのすゑぶくろ

アルミなべの黒ずみ対策

アルミなべは使いやすくていいのですが、なべ底が黒ずんでくるのが難点です。

そんなときの対処はリンゴにおまかせ！リンゴに含まれる酸には、黒ずみを取る効果があるのです。まず、アルミなべに水を張り、リンゴの芯や皮を入れて煮込んでく

ださい。これだけで、洗ってもなかなか落ちない頑固な黒ずみもきれいになります。

アルミなべの黒ずみが気になる際には、ぜひおためしください。



こんにちはいますよ。

今回、福祉大学の通信課程を卒業される、谷出支援員（足羽更生園）にインタビューしました。

【通信大学を希望した理由は何ですか？】

「若いうちの苦労は買ってでもしろ」ということわざがあるように、二十代の今のうちに、もう一度勉強をしようと思ったからです。

【苦労したことは何ですか？】

仕事が終わった夜や遊びたい休日の時間を四年間も勉強することはとても長かったです。途中で、単位を落とすこともありましたが、無事に卒業することができました。

【福祉の大学を選んだ理由はなんですか？】

専門性があり、幅広く福祉の分野についての知識を学べると考えたからです。

【次の目標はなんですか？】

次は、社会福祉士の資格にチャレンジしたいと思っています。頑張るぞ！

がんばり屋な谷出さんをみんなで応援しています。（職員一同）



右側 谷出支援員

手作りおやつ

いちご大福（6個分）

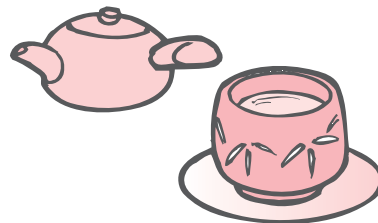
《材 料》

▲白玉粉	80 g
▲砂糖	大さじ 2 杯
▲水	100cc
▲あんこ	60 g
▲いちご	6 個
▲片栗粉	適量



《作り方》

- ① 耐熱容器（ボール）に白玉粉と砂糖を入れ、水を少しずつ加えながらダマがなくなるまでよく混ぜます。
- ② ラップをして、レンジで3分温めます。
（餅のように固まります）
- ③ しゃもじでなめらかになるまでかき混ぜます。
- ④ 再びラップをし、レンジで1分温めます。
- ⑤ バットに片栗粉をしき、取り出します。
- ⑥ 1個分を広げてあんこといちごをのせて包みます。



*できたての大福は、柔らかくてほっぺがおちますよ。行楽のお供にぜひどうぞ！



ありがとうございます

「二年後の贈り物」

先日、一年前に亡くなられた利用者の方のご親戚より「若狭塗り箸」を頂きました。それは、現在、在籍されている足羽ワークセンター利用者の方のお名前が彫られているもので、とても心がこもった箸でした。長年お世話になった御礼としていただきました。大切に使用させていただきます。心より御礼申し上げます。

青春の記憶

こんなことしてました

私は学生の間、何年か福井を離れていましたが、足羽河原の桜が咲くころには必ず帰っていました。その理由は、自転車のかごに卒業証書を入れる丸い筒を入れて、桜の花が舞い散る堤防を走り抜けるためです。

高校を卒業したころの切ない感覚がよみがえり、その感覚といつたらもう言葉では言い表せません。また、新しい門出への期待と思いを呼び起こし、気持ちを新たにしていたのかもしれない。さすがに三十歳も過ぎてしまったので今はできませんが…

足羽学園 職員 M・S

